



DuMA ニュースレター

2017年2月20日

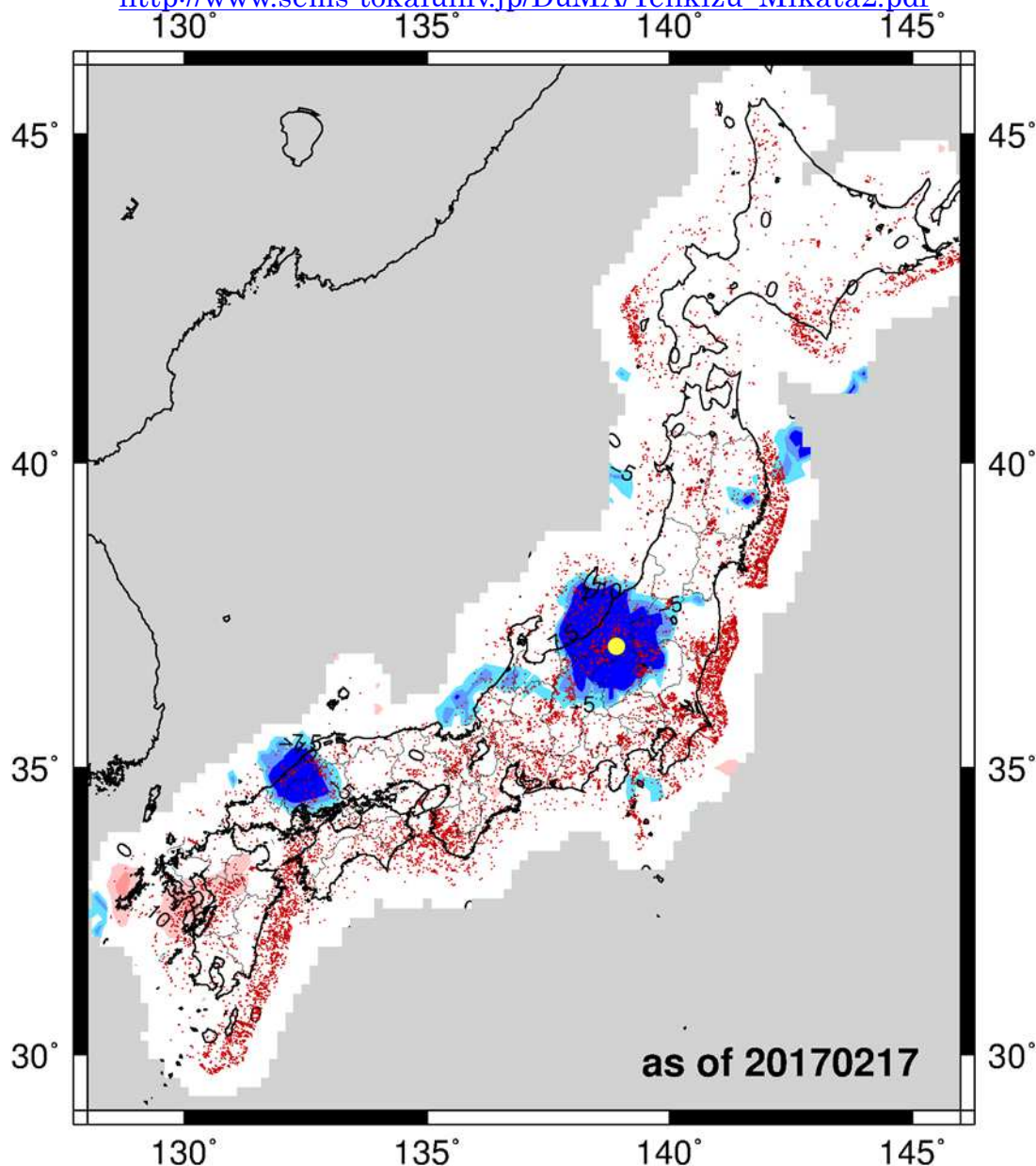
日本列島陸域の地下天気図®

1月16日のニュースレターでも掲載しました日本列島陸域の解析ですが、新潟県を中心とする異常が顕著となっています。また関東地方南部で継続していた異常がほぼ消えている事がわかりました。関東地方南部の異常はそれほど大きなものではありませんでしたので、地震が発生するとしても大きな被害が出るような地震ではない可能性が高いと考えています。

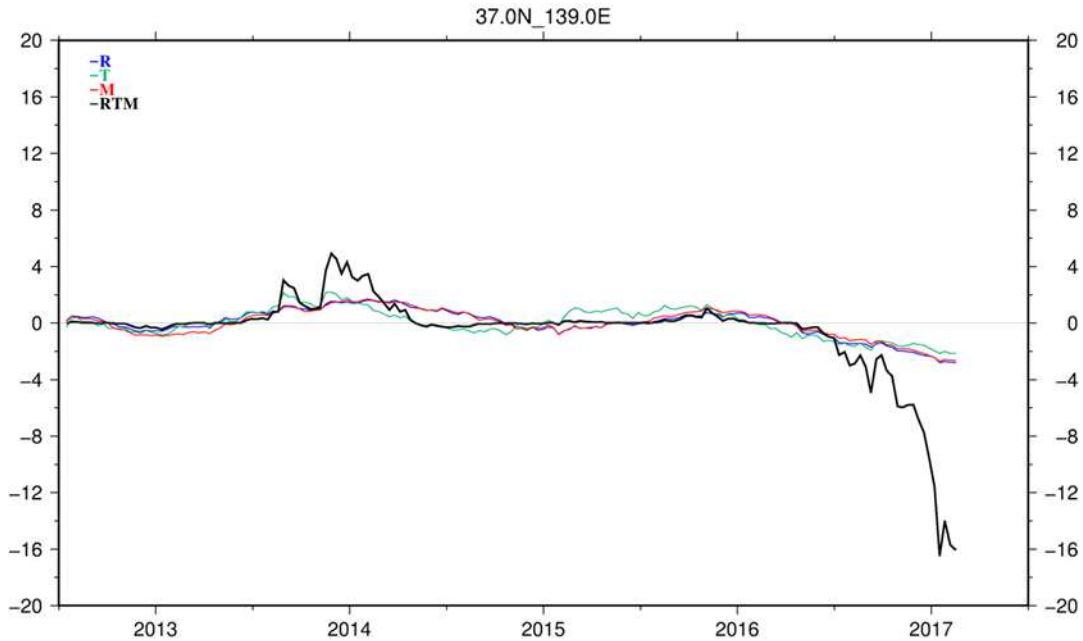
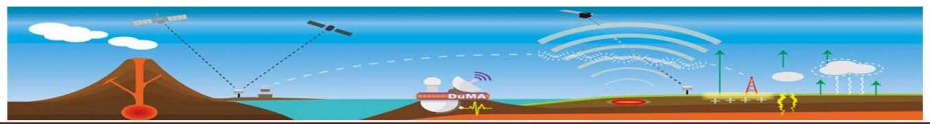
それに対し、新潟県・群馬県を中心とする北関東の異常は面積も大きく、今後の推移に注目しています。また中国・四国地方の異常も継続していますが、少し面積が小さくなったようです。岩手県を中心とした異常も消えかかってきました。地下天気図ではこの「消えかかっている」という事は、地震発生の可能性が経験的に高くなったという事を意味します。

詳しくはぜひ「地下天気図の見方」をご覧くださいだければと思います。

http://www.sems-tokaiuniv.jp/DuMA/Tenkizu_Mikata2.pdf



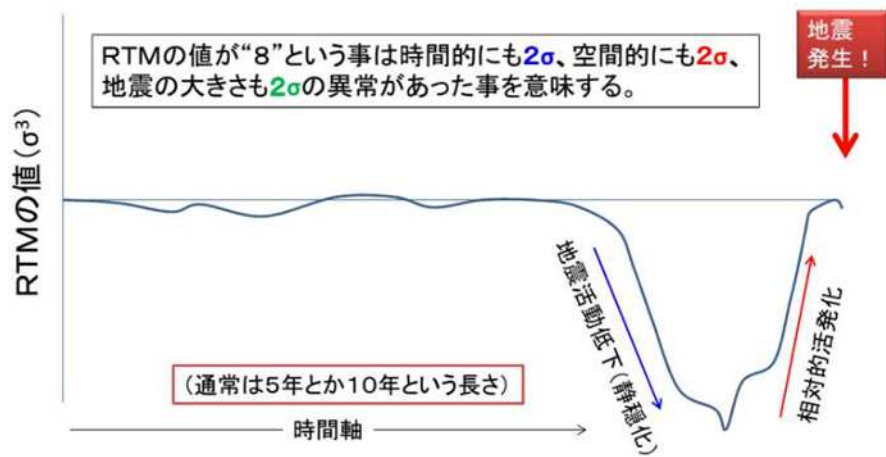
同じく「地下天気図の見方」の中で、「時系列データが重要」という事を示しています。今回、新潟県を中心とする異常のほぼ中心の北緯37度、東経139度の地点（図中の黄色い丸で示した地点）の時系列変化というものを示します。



このグラフはR TM値の時間変化ですが、2016年後半から黒い線が下に大きく振れだしています。これは現在、静穏化が進行中であることを示しています。この異常（下に向かうグラフ）が消失すると地震が発生する可能性が高くなったと経験則は示しています。ただ地震は青い静穏化の領域の少し外側で発生する事例もありますので、青い領域に入っていないから安心とはお考えにならないで頂きたいと思います。

地下天気図の時系列とは？

- ある地点（たとえば東京、京都、名古屋など）における地震活動の静穏化や活発化の推移を表現したものです



地下天気図 (RTM法) におけるパラメータの変化 (理想的な場合)